

作成者: 呉服 健一

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
整形外科科学Ⅱ		理学療法科／2年	2026／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	呉服 健一（実務経験有）
授 業 の 概 要				
整形外科疾患のうち外傷以外の疾患について紹介する。 疾患の病態理解、受傷機転、疾患に対する診断の流れ、治療を説明する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
主な整形外科疾患の病態について説明できる。 主な整形外科疾患の診断方法（所見、疾患特異検査）について説明できる。 主な整形外科疾患の治療方法について理解できる。 主な整形外科疾患のリハビリテーションについて理解できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	骨粗鬆症と骨代謝疾患	講義		
2	上肢の代表的な整形外科疾患①	講義		
3	上肢の代表的な整形外科疾患②	講義		
4	下肢の代表的な整形外科疾患①	講義		
5	下肢の代表的な整形外科疾患②	講義		
6	脊柱の代表的な整形外科疾患①	講義		
7	脊柱の代表的な整形外科疾患②	講義		
8	脊髄損傷（頸髄）	講義		
9	脊髄損傷（胸髄・腰髄）	講義		
10	末梢神経障害（絞扼性神経障害）	講義		
11	関節リウマチ①	講義		
12	関節リウマチ②	講義		
13	骨軟部腫瘍	講義		
14	骨壊死性疾患	講義		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
鳥巢岳彦 他『標準整形外科科学 第12版』医学書院. 東博彦 他『整形外科サブノート』南江堂. 加倉井周一・渡辺英夫 著『運動器疾患とリハビリテーション—PT・OTのための整形外科科学』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	

作成者:松本 昇

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内科学Ⅱ		理学療法科／2年	2026／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	竹村 繭美（実務経験有）
授 業 の 概 要				
消化器疾患と腎泌尿器疾患、代謝疾患について、成因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
消化器疾患と腎泌尿器疾患、代謝疾患について、成因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて学び、理解する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	消化器疾患①	講義		
2	消化器疾患②	講義		
3	消化器疾患③	講義		
4	消化器疾患④	講義		
5	消化器疾患⑤	講義		
6	消化器疾患⑥	講義		
7	腎・泌尿器疾患①	講義		
8	腎・泌尿器疾患②	講義		
9	腎・泌尿器疾患③	講義		
10	腎・泌尿器疾患④	講義		
11	腎・泌尿器疾患⑤	講義		
12	腎・泌尿器疾患⑥	講義		
13	代謝疾患①	講義		
14	代謝疾患②	講義		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
大成浄志 執筆 『標準理学療法学・作業療法学 専門分野 内科学』医学書院.		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
神経内科学		理学療法科／2年	2026／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	川崎 昭浩（実務経験有）
授 業 の 概 要				
神経内科学とは、中枢・末梢神経系および筋肉の内科的疾患を対象とする臨床医学である。リハビリテーションの対象は、神経筋骨格系に生ずる身体障害であるが、本講義は神経内科学総論であり、関連疾患の臨床症状や診断法について述べる。 〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
主な中枢神経疾患、末梢神経疾患の病態と症状などについて理解するとともに関連用語の修得とリハビリテーション医学に於ける障害分析能力を育成する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	Parkinson病を知るための基礎知識	講義		
2	Parkinson病の病態・症状について	講義		
3	Parkinson病の治療薬について	講義		
4	Parkinson病の評価	講義		
5	Parkinson症候群について	講義		
6	確認テスト 1	試験・解説		
7	脳血管障害を知るための基礎知識	講義		
8	脳血管障害の分類 脳梗塞の臨床病態について	講義		
9	脳血管障害の症状について	講義		
10	脳血管障害の評価について	講義		
11	確認テスト 2	試験・解説		
12	神経筋疾患の病態	講義		
13	神経筋疾患の病態	講義		
14	筋萎縮性側索硬化症（ALS）について	講義		
15	筋萎縮性側索硬化症（ALS）について	講義		
16	脱髄疾患について	講義		
17	脱髄疾患について	講義		
18	重症筋無力症について	講義		
19	重症筋無力症について	講義		
20	筋ジストロフィーについて	講義		
21	筋ジストロフィーについて	講義		

22	確認テスト 3	試験・解説		
23	運動失調症とは	講義		
24	運動失調症の種類とその特徴	講義		
25	運動失調症の評価	講義		
26	運動失調症の運動療法	講義		
27	運動失調をきたす疾患① 脊髄小脳変性症	講義		
28	運動失調をきたす疾患② 多系統萎縮症	講義		
29	確認テスト 4	試験・解説		
30	まとめのテスト	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
川平和美 他著『標準理学療法学・作業療法学 神経内科学』医学書院 田崎義昭・齋藤佳雄『ベッドサイドの神経の診かた』南山堂		確認テスト総合 まとめのテスト	50.0% 50.0%	確認テストとまとめのテストで評価する。

作成者: 杉本 和彦

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
小児科学		理学療法科／2年	2026／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉本 和彦（実務経験有）
授 業 の 概 要				
小児の医療とリハビリテーションをめぐる事柄全般について学習する。 【実務経験】 病院・学校勤務				
授業終了時の到達目標				
子どもの成長に対する概論と、理学療法士・作業療法士が関わることの多い疾患について理解する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	子どもの成長と発育、ライフサイクルにおける小児期の発達課題	講義、スライド		
2	子どもの成長と発育、ライフサイクルにおける小児期の発達課題	講義、スライド		
3	正常発達について①	講義、スライド		
4	正常発達について②	講義、スライド		
5	正常発達について③	講義、スライド		
6	正常発達について④	講義、スライド		
7	脳性麻痺について①	講義、スライド		
8	脳性麻痺について②	講義、スライド		
9	脳性麻痺について③	講義、スライド		
10	脳性麻痺について④	講義、スライド		
11	発達障害について①	講義、スライド		
12	発達障害について②	講義、スライド		
13	発達障害について③	講義、スライド		
14	発達障害について④	講義、スライド		
15	テスト	テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
奈良勲・鎌倉矩子・富田豊編『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	筆記試験

作成者：森下 正憲

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
一般医学		理学療法科／3年	2026／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	森下 正憲（実務経験有）
授業の概要				
救急医学の概要と救急措置法について概説する。リハビリテーション医療に必要な救急病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を学習する。次に、外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の代表的疾患について、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。 【実務経験】病院ならびに介護老人保健施設等 勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 救急疾患の病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を修得する。 2. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科の代表的疾患について、病態、特徴的に現れる症状、治療法を説明できる。 3. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科疾患におけるリハビリテーション留意事項を説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	救急医学総論①	講義、スライド		
2	救急医学総論②	講義、スライド		
3	救急医学各論①	講義、実技・演習		
4	救急医学各論②	講義、実技・演習		
5	救急医学各論③	講義、実技・演習		
6	産科学	講義、スライド		
7	婦人科学	講義、スライド		
8	皮膚科学	講義、スライド		
9	皮膚科学	講義、スライド		
10	皮膚科学	講義、スライド		
11	眼科学	講義、スライド		
12	眼科学	講義、スライド		
13	耳鼻咽喉科学	講義、スライド		
14	耳鼻咽喉科学	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
医歯薬出版：PT・OTのための一般臨床医学：明石謙		期末試験	100%	定期試験にて評価する。

作成者:松本 昇

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
薬理学		理学療法科／2年	2026／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	西本 侑市（実務経験有）
授 業 の 概 要				
薬理学は、生体と外界の化合物（薬）との相互作用の結果生じる現象を研究する学問である。本講義では、まず、薬理作用を理解するための生物学的な基礎知識の習得に重点を置き、分子レベル、細胞レベル、個体レベルで、薬の作用のメカニズムを説明する。 また、薬の体の中で動態、有害反応を学ぶことにより、臨床講義や実習で必要とされる薬物治療の基礎を習得できることを目指す。【実務経験】施設勤務				
授業終了時の到達目標				
・人の身体の生理学や代謝の原理的理解を基盤として、医薬等が、どのような薬理作用を示すか、その作用機構について理解できる。 ・個々の医薬品について具体例をもってその作用を理解できる。 ・医薬品による医療事故、サプリメント、食品の安全などについて、原理的に、人の身体に外から投入された物質と身体の相互作用に基づいていることを理解できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	薬理学概論	講義		
2	人の体の動きの原理的理解	講義		
3	薬理作用の分類	講義		
4	薬物の体内動態	講義		
5	薬物の作用機序	講義		
6	サプリメント、食品添加物などの薬	講義		
7	麻薬、毒物などに対する理解	講義		
8	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	期末試験によって評価します。

作成者:松本 昇

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
画像診断学		理学療法科／2年	2026／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	松本 昇（実務経験有）
授業の概要				
リハビリテーションに携わる医療専門職には、各種画像診断、生理機能検査学の基本的理解が必要である。 本講では、放射線医学の基礎、人体各部位のエックス線、CT、MRI の検査方法と画像診断を学習する。 生理機能検査学では、心電図、呼吸機能検査、血液ガス検査検査、脳波、筋電図検査、超音波検査について、その臨床的意義、情報収集技術、結果の解析、評価法を学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. X 線、CT、MRI の検査方法と、胸部、腹部、頭部画像診断を説明できる。 2. 心電図、呼吸機能検査、脳波、筋電図検査の臨床的意義、情報収集技術、評価法を説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	画像診断学総論	講義、スライド		
2	生理機能検査学総論	講義、スライド		
3	生理機能検査学各論①	講義、スライド		
4	生理機能検査学各論②	講義、スライド		
5	生理機能検査学各論③	講義、スライド		
6	生理機能検査学各論④	講義、スライド		
7	放射線医学総論	講義、スライド		
8	画像診断学各論①	講義、スライド		
9	画像診断各論② 頭部X線、CT、MRI検査、脳血管造影検査	講義、スライド		
10	画像診断学各論③	講義、スライド		
11	画像診断各論④	講義、スライド		
12	まとめ	講義、スライド		
13	まとめ	講義、スライド		
14	まとめ	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
医学教育出版社：PT・OTのための画像診断マニュアル：百島祐貴		期末試験	100.0%	筆記試験として100%評価

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床運動学		理学療法科／2年	2026／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	兼八 勇治（実務経験有）
授 業 の 概 要				
臨床における運動障害を、機能解剖学および運動生理学的知識に基づいて理解する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1) 各疾患の動作における特異性を説明できる 2) 各疾患の動作における特性性を理解し、評価することができる 3) 異常歩行の概要を理解し、評価することができる				
回	テ ー マ	内 容		
1	脳血管疾患患者の動作における特異性の概要①	講義、スライド		
2	脳血管疾患患者の動作における特異性の概要②	講義、スライド		
3	脳血管疾患患者の動作における特異性の概要③	講義、スライド		
4	脳血管疾患患者の動作における特異性の評価①	講義、スライド		
5	脳血管疾患患者の動作における特異性の評価②	講義、スライド		
6	確認テスト① （脳血管疾患患者）	講義、スライド		
7	脊髄損傷者の動作における特異性の概要①	講義、スライド		
8	脊髄損傷者の動作における特異性の概要②	講義、スライド		
9	脊髄損傷者の動作における特異性の概要③	講義、スライド		
10	脊髄損傷者の動作における特異性の評価①	講義、スライド		
11	脊髄損傷者の動作における特異性の評価②	講義、スライド		
12	確認テスト② （脊髄損傷者）	講義、スライド		
13	関節リウマチ患者の動作における特性の概要	講義、スライド		
14	関節リウマチ患者の動作における特性の評価	講義、スライド		
15	神経筋疾患患者の動作における特性の概要	講義、スライド		
16	神経筋疾患患者の動作における特性の評価	講義、スライド		
17	確認テスト③ （関節リウマチ、神経筋疾患患者）	講義、スライド		

18	高齢者の動作における特異性の概要①	講義、スライド		
19	高齢者の動作における特異性の概要②	講義、スライド		
20	高齢者の動作における特異性の評価①	講義、スライド		
21	高齢者の動作における特異性の評価②	講義、スライド		
22	確認テスト④ (高齢者)	講義、スライド		
23	異常歩行①	講義、スライド		
24	異常歩行②	講義、スライド		
25	異常歩行③	講義、スライド		
26	異常歩行④	講義、スライド		
27	異常歩行⑤	講義、スライド		
28	確認テスト⑤ (異常歩行)	講義、スライド		
29	試験	試験		
30	解説	解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
中村隆一 編著『臨床運動学』医歯薬出版.		期末試験 確認テスト	60.0% 40.0%	筆記試験と確認テストにて判定する。

作成者: 森下 正憲

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法管理学		理学療法科／3年	2026／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	森下 正憲（実務経験有）
授業の概要				
組織での理学療法部門は単独で機能しておらず、他職種との関係性を全体の枠組みの中でとらえていく必要がある。その為にも、理学療法部門の組織内での位置づけと役割、診療記録や他の記録の意義と運用、事故対応策などについて考察しながら、臨床現場における理学療法が効果的に実施できるためのマネジメントを学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
医療機関における理学療法部門の位置づけとチーム医療における役割を理解する。また、管理業務から臨床教育の基本について学び、臨床現場における理学療法が効果的に実施できるようプランを作成する。				
回	テーマ	内 容		
1	管理、マネジメント①	講義		
2	管理、マネジメント②	講義		
3	理学療法管理学①	講義		
4	理学療法管理学②	講義		
5	理学療法士の職業倫理①	講義		
6	理学療法士の職業倫理②	講義		
7	組織運営とマネジメント	講義		
8	理学療法士の職場管理①	講義		
9	理学療法士の職場管理②	講義		
10	理学療法業務のマネジメント	講義		
11	教育研究のマネジメント	講義		
12	保健制度と年金制度、雇用制度	講義		
13	生活保護制度、健康増進法	講義		
14	疾患別・病気別の理学療法マネジメント	講義		
15	試験・解説	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・奈良勲編著 理学療法管理学 医歯薬出版株式会社		期末試験	100%	

作成者:松本 昇

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法Ⅲ		理学療法科／2年	2026／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	茶谷志保 佐々木
授業の概要				
感覚検査、整形外科の手検査、痛み、筋緊張検査、協調性検査などを筆記面、実技面ともに学習し、各評価において、概論から各疾患に対する評価の選択が行えるようにする。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
感覚検査、整形外科の手検査、痛み、筋緊張検査、協調性検査などを筆記面、実技面ともに学習し、各評価において、概論から各疾患に対する評価の選択が行えるようにする。また、筆記面、実技面において知識、技術を習得する				
回	テーマ	内 容		
1	痛みの評価	講義、実技		
2	痛みの評価	講義、実技		
3	整形外科疾患検査	講義、実技		
4	整形外科疾患検査	講義、実技		
5	整形外科疾患検査	講義、実技		
6	整形外科疾患検査	講義、実技		
7	脳神経検査	講義、実技		
8	脳神経検査	講義、実技		
9	知覚検査	講義、実技		
10	知覚検査	講義、実技		
11	知覚検査	講義、実技		
12	知覚検査	講義、実技		
13	知覚検査	講義、実技		
14	知覚検査	講義、実技		
15	反射検査	講義、実技		
16	反射検査	講義、実技		
17	姿勢反射検査	講義、実技		
18	姿勢反射検査	講義、実技		
19	筋トーマス検査	講義、実技		
20	筋トーマス検査	講義、実技		
21	片麻痺機能検査	講義、実技		
22	片麻痺機能検査	講義、実技		
23	片麻痺機能検査	講義、実技		
24	片麻痺機能検査	講義、実技		
25	協調性検査	講義、実技		
26	協調性検査	講義、実技		
27	協調性検査	講義、実技		
28	協調性検査	講義、実技		
29	実技試験	試験		
30	筆記試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
望月久著『最新 理学療法学講座 理学療法評価学』医歯薬出版。 池田浩 編集『PT・OTの整形外科学』文光堂。 田崎義昭 著『ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版』南山堂。		筆記試験 実技試験	50.0% 50.0%	筆記試験、実技試験にて評価

作成者: 兼八 勇治

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法演習Ⅰ		理学療法科／2年	2026／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	兼八 勇治（実務経験有）
授 業 の 概 要				
評価測定法で学習した内容を病院・施設に出向き、患者様、利用者を対象に演習を行い、レジュメ作成までの過程を学ぶ。臨床実習のプレ実習として行う。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
疾患を有する方に対して検査測定ができるようにする。 また、問題点を抽出し統合と解釈までをレジュメ作成から学ぶ。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	講義		
2	症例準備①	講義、スライド		
3	症例準備②	講義、スライド		
4	症例評価①	外部実習		
5	症例評価②	外部実習		
6	レジュメ作成①	講義、スライド		
7	レジュメ作成②	講義、スライド		
8	まとめ	講義、スライド		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
なし		演習評価 課題評価	50.0% 50.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動療法		理学療法科／2年	2026／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	川崎 明浩（実務経験有）
授業の概要				
各種運動療法の基礎的理論を解説し、どのような障害に対して有効かを教授する。また、禁忌や注意点、リスク等についても併せて紹介する。				
〔実務経験〕 病院および介護老人保健施設等 勤務				
授業終了時の到達目標				
運動療法に必要な知識と技術を習得し、臨床で実施する基本的な運動療法手技について、その適応ならびに禁忌を学習する。併せて、リスク管理についても考えながら安全かつ効率的な方法を習得する。				
回	テーマ	内 容		
1	運動療法総論①	講義：歴史		
2	運動療法総論②	講義：運動療法の種類		
3	関節運動の基礎	講義：関節の構造と運動		
4	関節の障害	講義：関節拘縮		
5	関節に対する運動療法①	講義・演習：関節モビライゼーション		
6	関節に対する運動療法②	講義・演習：関節可動域練習		
7	筋収縮の基礎①	講義：筋収縮のメカニズム		
8	筋収縮の基礎②	講義：筋収縮の様態		
9	筋の障害	講義：筋萎縮および筋力低下		
10	筋に対する運動療法①	講義：演習：筋力増強トレーニング		
11	筋に対する運動療法②	講義：演習：筋持久力トレーニング		
12	筋に対する運動療法③	講義：演習：ストレッチ		
13	随意運動の基礎	講義：随意運動のメカニズム		
14	反射の基礎	講義：反射のメカニズム		
15	随意運動の障害①	講義：中枢神経発達の階層段階		
16	随意運動の障害②	講義：ブルンストロームの概念		
17	随意運動に関する運動療法	講義：反射抑制および随意運動の促通（ブルンストローム・PNF その他）		
18	運動制御と運動学習の基礎①	講義：中枢性の運動制御		

19	運動制御と運動学習の基礎②	講義：末梢性の運動制御（股関節・足関節戦略など）		
20	運動制御と運動学習の障害①	講義：錐体街路系障害（運動失調等の小脳系を中心とした障害）		
21	運動制御と運動学習の障害②	講義：錐体街路系障害（パーキンソン病等の大脳基底核を中心とした障害）		
22	運動制御と運動学習に関する運動療法①	講義・演習：姿勢保持・バランス保持練習		
23	運動制御と運動学習に関する運動療法②	講義・演習：協調運動		
24	運動と呼吸の基礎	講義：運動と呼吸の関係について		
25	呼吸障害	講義：運動療法の適用がある呼吸障害		
26	呼吸障害に対する運動療法	講義・演習：呼吸障害に対する運動療法（体位排痰法、腹式呼吸など）		
27	運動と代謝の基礎	講義：運動と代謝の関係について		
28	代謝障害	講義：運動療法の適用がある代謝障害		
29	代謝障害に対する運動療法	講義・演習：代謝障害に対する運動療法（有酸素運動を用いた運動療法）		
30	期末試験	試験・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・吉尾雅春 編集『標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論』医学書院.		期末試験	100%	

作成者: 竹村 繭美

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
物理療法		理学療法科／2年	2026／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	竹村 繭美（実務経験有）
授 業 の 概 要				
適切な物理療法が行えるよう各療法について、機器などの物理的特性、生体に及ぼす生理学的作用、効果と適応、手技、リスク管理などを中心に教授する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
適切な物理療法が行えるよう各療法について、機器などの物理的特性、生体に及ぼす生理学的作用、効果、適応を理解するとともに手技やリスク管理等を習得する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	物理療法総論（定義・目的・歴史）	講義・演習		
2	牽引療法（頸椎）	講義・演習		
3	〃（腰椎）、CPM	講義・演習		
4	水治療法	講義・演習		
5	〃	講義・演習		
6	寒冷療法 （一般寒冷療法、極低温療法）	講義・演習		
7	〃 （コールドパック、アイスパック、冷浴、クリッカー）	講義・演習		
8	寒冷による痙性抑制メカニズム	講義・演習		
9	光線療法（紫外線、赤外線）	講義・演習		
10	〃 （レーザー、スーパーライザー）	講義・演習		
11	光線療法実習	講義・演習		
12	電気療法	講義・演習		
13	温熱療法	講義・演習		
14	温熱療法	講義・演習		
15	試験・解説	試験・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 網本和 編著『標準理学療法学 専門分野 物理療法』医学書院. ・ 嶋田智明・高見正利 他編『物理療法マニュアル』医歯薬出版.		期末試験	100%	